

「自宅礼拝」の手引き

聖書によく出てくる「霊」とは、もともと「息」という意味です。そして、礼拝こそが、「信仰を養う息」にほかなりません。それを会堂に集ってできるのは「平和のしるし」、恵まれたときであることを、いま誰もが思い知らされています。

しかし、同時に、聖書は教えてくれるのです、それがゆるされない時にも礼拝はできることを。それぞれ置かれた場でささげる礼拝を神様は喜ばれ、一人ひとりの祈りを束ねて「1つの群れの礼拝」としてくださるのです。そして、「アーメン」(そのとおりでありますように)と祈る私たち一人ひとりに、「神様の息」(霊)を送り、心の深いところに力を注いでくださるのです。

そんな礼拝を、それぞれの場で守っていただきたいと願って、インターネットで礼拝をライブ配信する予定です(詳細はホームページに近日掲載予定)。

しかし、その手段が無い方も大勢いらっしゃると思いますので、ここに、礼拝順序を中心とした「自宅礼拝の手引き」を作成してみました。これをもとに、どうぞ、それぞれ言葉ややり方を工夫してください。また礼拝順序は、毎週末にホームページに掲載、そしてご希望の方にはメール・FAXでお伝えいたします。

黙 禱

(好きな讃美歌や、礼拝にふさわしいと思う曲を聴きながらでも)

招 詞

_____ (4月は、ヨハネ11章25節)

讃 美 歌

_____ (4月は、讃美歌18番 1～3節のみ)

主の祈り

(讃美歌93の5A)

天にまします我らの父よ。
願わくは御名(みな)をあがめさせたまえ。
御国(みくに)を来たさせたまえ。
みこころの天になるごとく、
地にもなさせたまえ。
我らの日用(にちよう)の糧(かて)を
今日も与えたまえ。
我らに罪を犯すものを我らが赦(ゆる)すごとく、
我らの罪をも赦したまえ。
我らを試(こころ)みにあわせず、
悪より救いいだしたまえ。
国と力と栄えとは、
限りなく汝(なんじ)のものなればなり。

アーメン

交読詩篇

_____ (復活日は第16編。以後は毎週変わります。)

信仰告白

(使徒信条) ※教団信仰告白は割愛します。

我は天地の造り主(つくりぬし)、全能の父なる神を信ず。我はその独り子(ひとりご)、我らの主(しゅ)、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、処女(おとめ)マリヤより生(うま)れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架(じゅうじか)につけられ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこより来たりて生ける者と死にたる者とを審(さば)きたまわん。我は聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、身体(からだ)のよみがえり、永遠(とこしえ)の生命(いのち)を信ず。アーメン

讚美歌

28番 (5月は24番になります。)

祈 禱

(とくに、心にかかる人のことをおぼえて、自由に)

讚美歌

_____ (復活日は、327番)

聖 書

旧約聖書 _____ (復活日は、イザヤ61章1節)
新約聖書 _____ (復活日は、ヨハネ20章19～23節)
※ゆっくり、できれば朗読。ご無理なら、じっくり黙読。

(讚美歌

333番 ここは復活日のみ)

黙 想

説教の代わりに、5～10分間「黙想」。

- ・筋書きや文脈は気にしすぎず、わかる範囲で充分。
- ・聖句の、とくに気になる言葉、気に入った言葉を、何度も繰り返し味わってください。
- ・その言葉が、暮らしの中で、日常生活でどのように活かされるかと言ったことも、併せて考えてみてはいかがでしょうか？

祈 禱

(み言葉という心の糧を受けた感謝ほか)

讚美歌

_____ (復活日は、290番)

祈 禱

(自宅ほか、いま置かれている場で礼拝が持てたことを感謝して。また、これから迎える一週間の御守り、そして群れの仲間、そのほか心にかかる人たちのために祈ってはどうか。)

讚美歌

27番

祝 禱

「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたと共に、永遠にありますように。アーメン。」